

所沢将棋物語その4 所沢で育った初のプロ棋士 及川拓馬

羽生善治さんは、所沢で生まれましたが、実際に将棋を覚えて強くなっていたときに住んでいたのは八王子でした。これに対し、及川拓馬さんは、小手指小・小手指中と所沢ですごし、現在も小手指に住んでおられます。

生まれは埼玉県北葛飾郡松伏町

及川拓馬（おいかわたくま）さんは、1987年5月6日に埼玉県北葛飾郡松伏町で、父一夫、母敏江の長男として生まれました。姉が一人おられて、家族は4人。家のまわりには田んぼがあり、蛙の鳴き声も良く聞こえ、虫取りなどもして遊んだそうです。

将棋を覚えたのは保育園に通っていた5歳のとき、アマの5級くらいのお父さんに将棋を教してもらいました。そのお父さんとは、よく将棋を指しましたが、小学校1年生のときには、お父さんは拓馬さんに勝てなくなっていたそうです。

初めての将棋会館と将棋連盟松伏町支部

将棋の総本山である将棋会館に初めて行ったのは小学校1年生のときでした。その将棋道場では10級と認定され、勝てなくて泣いてしまったそうです。

松伏町には日本将棋連盟の松伏支部があります。月2回日曜日に20名程度が参加するフリー対局というリーグ戦があって、大人に混じって参加するようになりました。上位者のAクラスと、その下のBクラスがあるそうですが、及川さんは、Bクラスで3位以内に入ることがよくありました。

醤油やティッシュペーパー5個というような商品ももらって帰ることも多く、両親にも喜ばれていたといえます。小学校3年生頃には、アマの初段程度になっていました。

小学校3年生のとき所沢へ移住

小学校3年生のときに1学期が終わって2学期から、所沢市立小手指小学校に転校してきました。及川さんは恥ずかしがりやだそうですが、登校したその日に友達ができ、その子とは一緒に通学するようになりました。現在でも交流が続いているそうで、友達には恵まれているとのことでした。

所沢では、将棋連盟の所沢支部の例会が月1回開催されますが、毎月参加するようになりました。所沢支部には、当時の及川さんより強い方も多くいて、相振り飛車なども教わったそうです。

また、八王子の将棋クラブにも、所沢支部の例会の

ない土日に通っていたそうです。八王子将棋クラブは羽生さんも通っていた将棋クラブで、強い子どもたちが多く集まっている名門の将棋クラブです。

さまざまな将棋大会に参加

所沢での例会、八王子将棋クラブと腕をみがきながら、さまざまな将棋大会にも参加しました。とうきち杯にも参加したことがあります。そして、県内の将棋大会では、ほぼ同じ年代で、広瀬章人さん、金井恒太さん、吉田正和さん、中村亮介さんという実力者に当たるが多かったそうですが、彼らはいずれも現在はプロ棋士になっています。このようにほぼ同じ年代の多くがプロ棋士になれる例は珍しいそうです。

小学校5年生のとき奨励会へ

小学校5年生、1998年9月に将棋のプロを目指す奨励会に6級で入会しました。当時、八王子将棋クラブでは、アマの五段で指していました。プロになろうという気持ちが強かったというより、まわりに受験する子どもが多かったので一緒に受けたところが合格してしまったという感じだったそうです。

師匠は詰め将棋作家としても有名な伊藤果（はたす）さんです。もともと及川さんは詰め将棋が好きでしたが、師匠の影響もあって、自ら詰め将棋をつくることも多いそうです。

卓球に打ち込んだ小手指中学校時代

小学校5年生頃から卓球をするようになりましたが、小手指中学校のときには、部活で卓球をやっていました。及川さんがいたときの小手指中学校は所沢市の団体戦では優勝しています。及川さん自身も、ダブルスで準優勝して、埼玉県大会ではベスト8まで進みました。どちらかというとスポーツは苦手だそうですが、卓球は特別だそうです。

中学校のときは、数学と政治経済が好きだったそうで、政治経済については、社会の仕組みが知ることが面白かったそうです。しかし、高校生になってからは、数学は嫌いになりました。（別紙へ続く）

(及川拓馬さん 別紙からつづき)

ギター部をつくった高校時代

高校は東小金井にある東京電機大学高等学校に進みました。中学生のときに、アコースティックギターを独学で弾くようになり、文化祭などでも弾いていましたが、高校生になって友人と6人でギター部をつくりました。今は弾くことも減りましたが、趣味の一つになっています。



まちぞうを訪れた及川さん

プロ棋士番号 268 及川四段誕生

奨励会に入ったのは小学校5年生、1998年9月のことでした。2007年10月1日20歳のときに、四段に昇段して晴れてプロ棋士になりました。毎年4人程度しか入れないというプロ棋士の関門を見事突破したのです。所沢市に住み続けながらプロ棋士となった第1号が及川拓馬さんです。

奨励会時代をふりかえると、スランプのあった中学生時代が苦しかったそうです。卓球にも打ち込んでいたことから、将棋にかかる時間が減っていたのかもしれませんが、しかし、卓球やギターに打ち込んだ経験は、及川さんの人生を豊かなものになっているように思えます。

そして、一番将棋に打ち込んだ時期はというと、高校を卒業し、奨励会を抜けるまでの時期で、ほぼ将棋漬けの日々を過していました。

また、今までの将棋の対局のなかで最も印象に残っているものは、奨励会から四段への昇段、プロ棋士

をつかんだときの一局だそうです。この言葉からも、プロ棋士になることの重みを感じます。

今後の目標はA級八段

今後の目標は、A級にあがることだそうです。名人を頂点とする将棋界にあって、A級となることで、はじめて名人への挑戦資格を得ることになり、文字どおり、将棋界の第一人者のひとりとなります。そのための道のりは、現在のC級2組から、C級1組、B級2組、B級1組、A級と4階級あがらなくてはなりません。昇段のチャンスは年に1回、順位戦といわれる仕組みですので、一局一局、厳しい勝負が待っています。今後の及川さんのご活躍を期待しています。

及川拓馬さんQ&A

Q 将棋を強くなるには、どうしたらいいですか？

A 対局、棋譜並べ、詰め将棋の3本柱を続けることで、3つにバランスよく取り組むことが大切です。

Q 及川さんはどんな棋風ですか？

A 攻め将棋で、駒をすべて使って軽くさばくのが好きです。

Q 将棋の魅力はなんですか？

A 将棋は絵を描くことに似ていると思います。描きたい絵を描くように、局面をつくっていいです。また、終盤のスリルも魅力です。

Q プロ棋士を目指す子どもたちに一言。

A プロ棋士になるには覚悟が必要で、毎日続けることです。先ほど述べた強くなる秘訣の3つを続けるならば、必ずプロ棋士になれます。

編集後記

上記の内容は、12月3日午後1時頃から3時過ぎまで約2時間にわたって、及川さんに取材させていただいたものをもとに作成したものです。ご協力に心から感謝いたします。今回はその概要ですが、3月の展示では、さらに充実した内容をお知らせします。また、及川さんと話をさせていただいた中で最もびっくりしたことは、プロ棋士は平均寿命が一般の人の寿命よりも10年程度短いというお話でした。その理由として、順位戦でのプレッシャーが大きいのではないかということで、まさに命を削るような厳しい勝負の世界に生きておられるのだと感じました。